平成22年11月16日（火）

平成22年度広島県道徳教育指導資料作成委員会
分野別作成部会（第7回）

道徳の時間の指導の一層の充実に向けて

指導第三課　道徳教育係

1　道徳の時間の授業改善の視点

（1）児童生徒から見た道徳の授業

○　子どもたちが「楽しい」「ためになる」と感じる授業

【小学校】○今まで気付かなかった大切なことに気付いたり，感動したりすることができる。
○資料が興味深く，心をうつものが多い。
○自分の体験と重ね合わせて考えてみたり，自分だけでなく他の人もそうなんだなあと感じたりすることが多い。

【中学校】○今，悩んでいる生き方の課題に合致した内容である。
○自由で活発な話し合いができる。
○自分のよさ，友だちのよさが認識できる。
○今まで，気付かなかったりしたことに気付いたり，感動したりできる。
○一つのことを，じっくりと考え自分を見つめられること。

○　子どもたちが「楽しくない」「ためにならない」と感じる授業

・先生の話ばかりで面白くない。
・文章を読んで感想を書くだけだから。
・自分の人生に役立ちそうもない。　　等

（2）道徳の時間の指導における配慮とその充実

道徳の時間における指導に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

【配慮すべき観点】

ア　道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
イ　体験活動を生かすなどの指導の充実　・・・【参考1】
ウ　魅力的な教材の開発や活用
エ　言葉を生かし考えを深める工夫（小），表現し考えを深める指導の工夫（中）

○　自分の考えを基に表現する機会の充実
・児童に自分の考えをもたせる（小）
・自分の考えを基に書いたり話し合ったりする（小）
○　児童が自らの成長を実感できるようにする工夫（小）　・・・【参考2】

オ　情報モラルの問題に留意した指導

（文部科学省「小・中学校学習指導要領解説道徳編」（小）PP.90-98（中）PP.95-103から）

（2）魅力的な道徳の授業をつくるポイント

ア　魅力的で多様な道徳の授業を構想しよう。
イ　体験を生かした道徳の授業を工夫しよう。
ウ　各教科，特別活動と響き合う授業を工夫しよう。
エ　総合的な学習の時間と響き合う授業を工夫しよう。
オ　自己を見つめ未来を切り拓く実践力を育てる授業をつくろう。
カ　悩みや心の揺れを取り上げる授業を工夫しよう。
キ　協力的な指導を多様に取り入れよう。
ク　家庭や地域社会と連携を図った授業をつくろう。
ケ　指導上特に配慮を要する子どもへの対応を考えよう。
コ　魅力的な資料を選択し開発しよう。

（文部科学省「小学校　心に響き，共に未来を拓く道徳教育の展開」P. 34 から）

（3）魅力的で多様な道徳の授業を構想する

【魅力的で多様な道徳の授業を構想するポイント】

道徳の授業が子どもの心に響き，やりがいのあるものになるようにするためには，次のような点に配慮しながら授業の構想に臨むことが大切である。

ア　道徳の時間の特色や役割を明確にして構想する。
イ　授業の構想を表現する学習指導案を，教師の思いが表れるものとする。
ウ　多様な道徳資料を生かすように努める。
エ　子どもの発達段階や実態を柔軟にとらえて学習活動を構想する。
オ　学習の場，時間，指導体制，学習集団などを工夫する。

（文部科学省「小学校　心に響き，共に未来を拓く道徳教育の展開」P. 42 から）

（4）道徳の時間の特色や役割を明確にして構想する

【道徳の時間を要として道徳的価値の自覚を深めていくためのポイント】

道徳の時間においては，人間としてよりよく生きるという側面から道徳的価値の自覚を深め，自らの生き方を主体的に考えられるようにしていかなければならない。

ア　道徳的価値について積極的にとらえられるようにする。
・日常生活とのかかわりにおいて，心に感じ，心が動き，心をはずませるような体験は，すべて道徳的価値がかかわっていることを自覚できるようにする。
・よりよく生きていく支えとして，道徳的価値は，誰もが持つよりよく生きようとする心そのものであることを理解できるようにする。（オリエンテーションや授業後の自己評価の工夫など）

イ　関心・意欲を主体化する。（導入の工夫，資料提示の工夫，表現活動を取り入れる工夫など）

ウ　資料へのかかわりを深める。

道徳の授業においては，どんな資料（補助資料も含めて）を使うか，及びそれをどのように使うかが大きなポイントになる。

子どもたちの心の動きを把握する	○　資料を読んで，子どもたちがどのような心の動きをおこすのだろうか，しっかり押さえておく必要がある。 （一人一人の事前に行っている体験，現在の興味・関心，資料の描かれ方，資料そのものの内容などが影響してくる）
資料の世界にひたれるような工夫をする	○　視聴覚教材を用いる。　○　実物を提示する。 ○　ゲストの方に話していただく。　○　音楽を使う。 ○　臨場感あふれる場にしていく。　○　読み語りを工夫する。　など
多面的に考える視点の工夫をする	《 多面的に考える方法 》 ○　行間を読む。　○　立場を変えて考える。 ○　続きを創作する。（その際，状況に応じて工夫すること） ・全く自由に考えるか，さらなる条件を付与して考えるか。 ・各個人で行うか，グループで行うか。 ○　補助資料的なものを投げかける。 ○　地域の人に話をしてもらう。 ○　教師自身の体験を話す。　など

エ　自分を見つめることを深める。

○　資料の登場人物あるいは資料の内容に照らし合わせて自分を見つめてみる。

○　資料から離れて，資料で取り上げた価値を，自分の生活全般を振り返りながら，心の内面を見つめていく。

オ　よりよく生きようと意欲付ける。（事後指導，家庭や地域社会との連携など）

○　価値の自覚が深まれば，自らそれを実現しようとする意欲がわいてくる。そこで，実現に向け，一歩でも近づくための具体的な課題を見つけていくところまでもっていく必要がある。そのためには，今，自分に何ができるのかを冷静に見つめる目を養う。道徳ノートなどに記入し，事後の指導において教師と話し合ったり，保護者と話し合ったりする機会を設けていく。

【 参考１ 】 子どもたちの成長の過程と体験活動

文部科学省初等中等教育局（平成14年10月）「体験活動事例集－豊かな体験活動の推進のために－」から

小・中・高等学校等において体験活動の充実を図るに当たり，子どもたちの成長の過程を踏まえ，それぞれの学校段階や学年に応じたものとなるよう工夫することが大切である。ここでは，各学校の取組の手がかりとなるよう，体験活動との関連からみた子どもたちの成長の過程における主な特徴を踏まえ，考えられる体験活動の工夫を例示する。

1　小学校

（1）低学年－体験活動から「気づき」の生まれる低学年の時期－

幼児期は体験活動が中心の時期であり，その特徴として，手で触れたり全身で感じたりして身体ごと関わること，活動と場が密接に結び付いていること，体験が感情と切り離せないこと，体験活動から学びの芽生えをとらえることができることなどが挙げられる。小学校低学年の時期は，このような幼児期的な特性を残しながらも，言葉と認識の力が広がり，ある程度，時と空間を越えた見通しをもてるようになる。例えば，算数の時間なら，数の問題に集中できるといった具合に，数や言葉について発達が進み，半具体物（タイルなど）を使って抽象的に考えていくことも多少は可能になる。

このような時期において，例えば次のような観点から体験活動を工夫することが考えられる。

① 子どもの中で活動がつながるようにする。

小学校低学年で展開される体験活動は，幼児期での体験活動と類似しながらも，そこからの発展が見られる。例えば，生活科では，幼稚園と違って間隔が空いた時間で活動が行われるが，子どもたちはそれを記憶の中でつないでいけるようになる。ただ，全く違う場面になると，子どもにとってつながりを見いだすことが難しくなる。このため，間隔を多少あけつつも，類似したり関連の深い活動を続けていくことで，気づきが定着したりまとまったりしてやがて理解として成り立っていくようにすることが大切である。

② 場になじみ安心して活動できるようにする。

この時期の体験活動は，どのような場で行われるかで意味が異なってくる。同じ遊びでも，いつもの広場でするか，目新しい公園でするかで印象が変わってくる。目新しい場所は新鮮であり，面白い。一つの場面が心に刻まれることもある。一方，なじみのあるところでは，繰り返し出会うことを通して，多種多様な気づきが生まれ，それらの関連が形成できる。それらの関連から，意味を考え，学びが発展していくことにつながる。子どもたちが活動の場に親しみ愛着が生まれ，安心して活動できることが意味を持ってくる。

③ 自分たちの生活や活動とつながるようにする。

子どもたちの体験活動にふくらみをもたせるためには，活動を単独の孤立したものとしないで，普段の生活や活動とつながるようにすることが大切である。子どもたちの生活圏ではみられなかった対象とかかわる活動であれば，生活のどこかでそれと出会い，体験活動と結びつくよう配慮したい。例えば，ある動物と出会う活動について，学校で上級生が飼育している動物とふれあう機会が提供され，その後もその動物と繰り返し関わり，やがてどんな様子であるか観察したり，低学年なりに世話をしたりするといった活動に広がっていくことなどが考えられる。

④ 物事の本質に根ざした気づきが生まれるようにする。

体験活動には，まず体験することに価値がある面と，そこから気づきが生まれ次第に深い理解へと発展していくところに意味がある面とがある。体験活動を通して何かを考えてほしいという場合には，その時期なりの気づきを大事にする必要がある。気づきは多種多様なものがあり，成長に応じてできるだけ物事の本質に根ざしたものが生まれるようにしたい。このため，言葉にして自覚できるようにするとともに，いろいろな面の気づきの関連がついていくよう配慮することが大切である。

（2）中・高学年ー社会に広がっていく中・高学年の時期ー

小学校中学年以降になると，幼児期を離れ，物事をある程度対象化して認識することが可能になっていく。対象との間に距離をとって分析できるようになり，知的な活動も分化した追求が可能になる。自分のことも距離をとってとらえられるようになることから，自分と対象との関わりが新たな意味を持つようになる。

このような時期において，例えば次のような観点から体験活動を工夫することが考えられる。

① 自分との関わりを明確にし，主体的に取り組めるようにする。

幼児期には，目の前の対象に一体的に関わり，その関わりがやる気の現れそのものであるととらえられる。これに対し，小学校中・高学年の時期になると，成長に伴って分化した活動が可能になり，自分と直接に関わりが感じられなくても，とりあえず体験活動はできるし，そこで一応の学びは成り立つ。しかし，単に体験活動をすれば，自ずと自分との深い関わりが成り立ち，活動を意義あるものにできるわけではない。自分とのかかわりを明確にし，主体的に取り組めるようにすることが大切である。自己が明確になり自覚されるようになる時期において，自分がやりたいと考えて，選び，繰り返しそれについて思いをめぐらし，その活動を展開する中で活動は深まり達成感が得られる。全身で関わる中で，その活動が自分のものだと思えてくる。

② 社会に目を向け，多くの人々と関われるようにする。

この時期の子どもたちは，社会的な広がりが増し，世の中の人々の生活などの様子が目に入ってくるようになる。また，自分の活動を世の中の人々の活動と重ね合わせ，つながりを感じることができるようになる。このため，社会に目を向け，多くの人々と関われるようにすることが大切である。例えば，川を清掃する活動を通じて河川の保全や環境保護に努力している専門家や団体の人々を知り，その人たちの活動と自分たちの活動を重ね合わせて考えることができる。多くの人々とかかわる体験活動を通して，社会には様々な仕事や活動を真剣に追求している人たちがいることが分かる。そして，自分たちの体験活動に本気で関われるようになる。

③ 体験活動と教科等での学習をつなげていく。

中・高学年の時期になると，体験活動と教科等の学習で得た知識とのつながりを付けることができるようになる。幼児でも体験活動を自分が十分によく理解している枠組でとらえることは可能だが，他の学習活動で調べたことや最近学んだことを思い起こして，体験していることや調べている事柄の理解に用い活用することは容易ではない。体験活動は身体全体でそこに入り込むことだけに，その体験から離れて，他のところで得た知識を使って理解するには，物事を対象化できる力が必要になる。また，体験で印象に残ったことを教科の学習活動で事例として用いて理解を深めることも可能になる。このように，体験と知識の両立と関連が可能になることは，この時期以降の体験活動の在り方を大きく変えることになる。

④ 体験活動を振り返り意味を考える。

体験活動を整理し，振り返って，その意味を把握することが可能になっていく。体験は一度きりであるが，その体験を繰り返し，時間をかけその全体を振り返り意味を考えることを通して，体験活動の価値はより高いものになっていく。そのためには，体験活動のその折々の様子を資料として保持するなどして振り返りを可能にする手立てを工夫することが必要になる。また，体験活動の意味を把握するために，自分なりに整理し，感じたところを文章に書いて，意味を考える働きを促すことも重要である。

2 中学校－内面との結びつきが意味を持つ中学生の時期－

中学生になる頃に，思春期に入り，親や回りの友だちと異なる自分独自の内面の世界があることに気づいていく。また，内面の世界が回りの友だちにもあることが気づき，友人との関係が自分に意味を与えてくれると感じる。さらに，未熟ながらも大人に近い心身の力をもつようになる。大人の社会とかかわる中で，大人もそれぞれ自分の世界をもちつつ，社会で責任を果たしていることへの気づきへと広がっていく。

このような時期において，例えば次のような観点から体験活動を工夫することが考えられる。

① 自分の内面の世界を表現する。

思春期は，混迷の時期である。この時期の変化は一般的な知識としては理解されても，自分の変化がどのようなものなのか，自分がどのように変わっていくのか，見当がつかない。そのような時期に，内面を自分なりに位置付けていくには，自分の内に生まれる思いを何らかの表現手段により表していくことが重要である。例えば，言葉や造形や音楽などの表現は，自分のあいまいだが微妙で複雑な何かを表す手立てとなっていく。子どもたちがそのような表現の手立てをうまく手に入れられるよう，表現活動を核とする体験活動を工夫することが考えられる。その際，ただぼんやりとした普段の状態を表すことは難しい。次項で述べるように，級友と一緒に打ち込み，心を大きく揺さぶるような感動が得られる体験活動を行い，その高まった感動をもとに表現活動を展開することが考えられる。

② 級友と共に活動し心を揺さぶられる体験をする。

この時期には，友人との関係が特別な意味を担ってくる。自分の中の，自分でも予想できない変化は，親や家族との関係にも現れる。家族を必要としつつも，以前のように甘えることは難しくなり，例えば気の合う友人の中での何気ないおしゃべりに安心を見いだせる。そのような友人との関係を成長にとって意味の深いものにしていくことが求められる。いかにして対等の関係の中で，共同して新たなものを発見したり，作り出したりする関係を構築できるかが重要である。自分たちが探索し，考えていくことで，他では得られない新たなものを確かに自分たちの力で見出せたという実感が得られるようにすることが大切である。そのことを通して，単なる仲良しの関係を協同する関係に転換し，また，協同する中で対立もありつつ，共に作り出すことの意義を分かるようにしていきたい。

③ 大人の世界に加わり一定の役割を果たす。

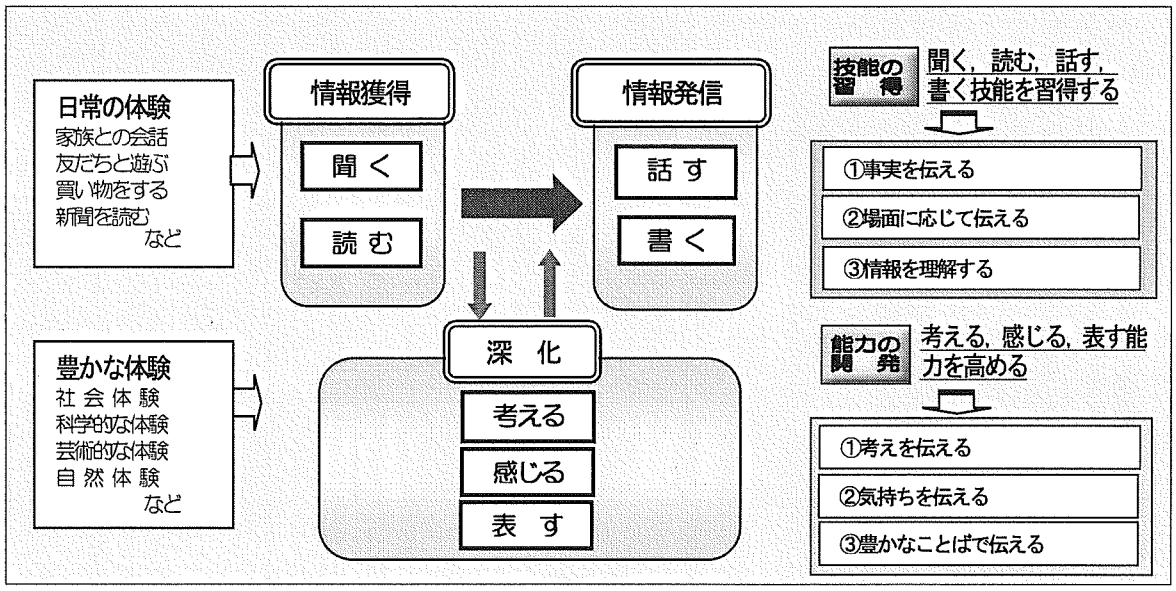
今日の社会は，子どもでいる時期が長くなり，大人になれないままでいるといわれている。子ども扱いを受けることで，責任感をもてず，受け身で行動したり，学ぶことの意味を見失ったりすることもある。この時期になると，未熟ながら，大人に近い心身の力をもつようになる。大人の世界に加わり，大人と共に働き，一定の役割や責任を担う体験をすることを通じ，社会の在り方を垣間見て，苦労もあるが生き甲斐もあることなどを分かるようにすることも大切である。

④ 自分たちの取組を社会に発信していく。

中学生にとって，子どものままで満足して遊んだり学んだりしている時期は過ぎたが，大人がやっていることに追いつくことは到底まだ出来ないことも分かっている。一人前に動くようになれる先は無限に思えるほど長い。自分が学ぶことと大人の仕事などとの乖離を，自分たちが考えて取り組んだことの成果を社会に発表し提案していくような活動を通して，できるだけつなげていくことが考えられる。中学生が全身で関わったり全力で取り組んだ活動の成果は，大人からも十分に評価されるようなものになりうる。

【参考２】　確かな「ことばの力」の育成（平成２２年度広島県教育資料などから）

次の図は，本県における「ことばの教育」の考え方を概念図に表したものである。



児童生徒が，日常の様々な体験を通して情報を確実に理解するとともに，場面に応じて事実を正確に相手に伝えることができるようになること，さらに，豊かな体験によって自分の考えを深め，豊かな表現ができるようになることが，「ことばの教育」の目指すところである。

広島県では，子どもたちに身につけてほしい「ことばの力」を「技能」面と「能力」面の２つに分けて考えている。

○　技能

「技能」の習得は，日常生活に必要な「ことばの力」をつけることをめざしている。情報獲得の手段としての「聞く」「読む」，情報発信の手段としての「話す」「書く」技能を具体的なトレーニングを通して確実に習得させることが必要である。それにより，「正確に分かりやすく伝える」「場面や相手，目的に応じて適切に伝える」「情報を確実に理解する」などの基礎的な「ことばの力」をつけることができる。

【技能の習得】

「聞く」「読む」「話す」「書く」技能を習得

⇩

・事実を正確に分かりやすく伝える（分かりやすく説明や描写ができる）
・場面や目的に応じて適切に伝える（質問，依頼，約束，謝罪など適切な情報伝達ができる）
・聞いたり，読んだりしたことを確実に理解する（記録，要約など情報を確実に理解できる）

○　能力

「能力」の開発は，基礎的なことばの力の上に立ち，言語活動をより深める「論理的な思考力」「豊かな感受性」「豊かな表現力」を育成していくことをめざしている。

【能力の開発】

「考える」「感じる」「表す」能力を開発

⇩

・筋道を立てて考え，論理的に表現する（自分の考えを根拠（理由）を明らかにしながら表現できる）
・感受性を働かせ，情感を込めて表現する（人の思いを感じたり，自分の気持ちを伝えることができる）
・ことばの豊かさを味わい，自ら豊かに表現する（芸術や古典などの様々な表現方法を知り，自ら豊かな表現ができる）

【引用・参考文献】

・文部科学省（平成 20 年）「小学校学習指導要領」
・文部科学省（平成 20 年）「中学校学習指導要領」
・文部科学省（平成 20 年）「小学校学習指導要領解説　道徳編」
・文部科学省（平成 20 年）「中学校学習指導要領解説　道徳編」
・文部科学省（平成 14 年）道徳教育推進指導資料『小学校　心に響き，共に未来を拓く道徳教育の展開』
・文部科学省（平成 14 年）道徳教育推進指導資料『中学校　心に響き，共に未来を拓く道徳教育の展開』
・文部科学省初等中等教育局（平成14年10月）「体験活動事例集－豊かな体験活動の推進のために－」
・広島県教育委員会（平成22年）「平成22年度　広島県教育資料」
・押谷由夫（1999 年）『新しい道徳教育の理念と方法』東洋館出版社

平成２１・２２年度　開発教材【修正版】　　※H22.10.27 現在

分野	名　前	所属校	資料名（素材名）	主　題	内容項目				校種・学年			
					1	2	3	4	低	中	高	中学
先人の伝記	木村　智子	呉市立三坂地小学校	「希望の光」	希望	(2)						◎	
	奥田　　健	大竹市立小方小学校	「和田吉左衛門物語　～新たな地を求めて～」	郷土愛				(7)			◎	
	津秋　智子	廿日市市立宮園小学校	「そうかさあの石　～上田宗箇～」	個性の伸長 思いやり	(5)	(2)				◎	○	
	福田ゆりえ	坂町立横浜小学校	「青き一筋の光をもとめて　～畝　為吉物語～」	郷土愛				(7)			◎	
	松永美代子	尾道市立日比崎中学校	「夢とロマンを追い求めて　～彫刻家　園鍔勝三～」	理想の実現	(4)							◎
	内田真千代	府中市立上下南小学校	「わたしが行かねば」	強い意志	(2)					◎		
自然	岩見　文彦	安芸高田市立吉田小学校	「７００歳の大杉」	郷土愛				(5)	◎			
	今田富士男	安芸太田町立戸河内中学校	「恐羅漢」	生命尊重 畏敬の念			(1) (2)					◎
	松葉　伸恵	神石高原町立豊松小学校	「モリアオガエルを守る」	自然愛護 郷土愛			(2)	(7)	○		◎	
	小原　智穂	三次市立田幸小学校	「待月」	畏敬の念			(3)			◎	○	
	石村　　誠	庄原市立東小学校	「時をおよぐクジラ」	生命尊重 自然愛			(1) (2)		○	◎	○	
伝統と文化	溝上　孝弘	竹原市立竹原西小学校	「三枚の写真」	郷土愛				(7)			◎	
	寺川　博人	東広島市立高屋西小学校	「百試千改の夢」	希望・努力 郷土愛	(2)			(7)		○	○	
	清野由美香	府中町立府中緑ケ丘中学校	「僕らの手で受け継ぐ」	郷土愛				(8)				◎
	田中　敬子	熊野町立熊野第四小学校	「ジブリ絵職人のアニメ筆」	創意進取 勤勉努力	(2) (5)				○	○	◎	
	村上　由里	大崎上島町立大崎上島中学校	「大崎上島の櫂伝馬」	郷土愛				(7)			◎	○
	新川　　靖	北広島町立八重東小学校	「みぶの花田うえ」	郷土愛				(5)	◎			
	池田　明子	福山市立野々浜小学校	「日本一の琴づくり　～こだわりの伝統工芸士 藤田房彦～」	希望，努力	(2)						◎	
スポーツ	中下　正美	江田島市立高田小学校	「ゆめにむかって　～栗原恵選手のゆめ～」	勤勉努力	(2)				○	◎		
	税所　正紀	海田町立海田小学校	「強いものは美しい　～日本人初の金メダリスト 織田幹雄～」	不撓不屈	(2)						◎	
	平松　理恵	三原市立西小学校	「今を一生懸命　～日本女子体操を支えた池田敬子さん～」	希望，努力	(2)						◎	
	重森恵美子	世羅町立大田小学校	「心のたすきをつなぐ」	役割と責任の自覚				(3) (4)			◎	○
	鍵山　員子	広島市立瀬野川中学校	「風を感じて～侍ハードラー　為末大～」	目標への努力 生きる喜び	(2)	(6)	(3)				○	◎

【参考１】平成２２年度　開発教材一覧

分野	名前	所属校	資料名等	授業展開例 A	授業展開例 B
先人の伝記	木村　智子	呉市立三坂地小学校	「希望の光」	小学校高学年　１－（２）希望	
	奥田　　健	大竹市立小方小学校	「和田吉左衛門物語～新たな地を求めて～」	小学校高学年　４－（７）郷土愛	
	津秋　智子	廿日市市立宮園小学校	「そうかさあの石～上田宗箇～」	小学校中学年　２－（２）思いやり	小学校高学年 １－（５）
	福田ゆりえ	坂町立横浜小学校	「青き一筋の光をもとめて ～畝　為吉物語～」	小学校高学年　４－（７）郷土愛	
	松永美代子	尾道市立日比崎中学校	「夢とロマンを追い求めて ～彫刻家　園鍔勝三～」	中学校　１－（４）理想の実現	
	内田真千代	府中市立上下南小学校	「わたしが行かねば」	小学校中学年　１－（２）強い意志	
自然	岩見　文彦	安芸高田市立吉田小学校	「７００歳の大杉」	小学校低学年　４－（５）郷土愛	
	今田富士男	安芸太田町立戸河内中学校	「恐羅漢」	中学校　３－（２）畏敬の念	中学校 ３－（１）生命尊重
	松葉　伸恵	神石高原町立豊松小学校	「モリアオガエルを守る」	小学校高学年　３－（２）自然愛	小学校高学年 ４－（７）郷土愛
	小原　智穂	三次市立田幸小学校	「待月」	小学校中学年　３－（３）畏敬の念	小学校高学年 ３－（３）畏敬の念
	石村　　誠	庄原市立東小学校	「時をおよぐクジラ」	小学校中学年　３－（２）自然愛	小学校高学年 ３－（１）生命尊重
伝統と文化	溝上　孝弘	竹原市立竹原西小学校	「三枚の写真」	小学校高学年　４－（７）郷土愛	※竹原市　小低・中・高，中学作成中
	寺川　博人	東広島市立高屋西小学校	「百試千改の夢」	小学校高学年　４－（７）郷土愛	小学校高学年　１－（２）　※資料有
	清野由美香	府中町立府中緑ケ丘中学校	「僕らの手で受け継ぐ」	中学校　４－（８）郷土愛	
	田中　敬子	熊野町立熊野第四小学校	「ジブリ絵職人のアニメ筆」	小学校高学年　１－（５）	小学校中学年　１－（２）　※資料有
	村上　由里	大崎上島町立大崎上島中学校	「大崎上島の櫂伝馬」	小学校高学年　４－（７）郷土愛	
	新川　　靖	北広島町立八重東小学校	「みぶの花田うえ」	小学校低学年　４－（５）郷土愛	
	池田　明子	福山市立野々浜小学校	「日本一の琴づくり ～こだわりの伝統工芸士 藤田房彦～」	小学校高学年　１－（２）希望，努力	指導方法
スポーツ	中下　正美	江田島市立高田小学校	「ゆめにむかって～栗原恵選手のゆめ～」	小学校中学年　１－（２）勤勉，努力	
	税所　正紀	海田町立海田小学校	「強いものは美しい ～日本人初の金メダリスト 織田幹雄～」	小学校高学年　１－（２）不撓不屈	指導方法
	平松　理恵	三原市立西小学校	「今を一生懸命 ～日本女子体操を支えた池田敬子さん～」	小学校高学年　１－（２）	
	重森恵美子	世羅町立大田小学校	「心のたすきをつなぐ」	小学校高学年　４－（３）役割と責任の自覚	中学校 ４－（４）
	鍵山　員子	広島市立瀬野川中学校	「風を感じて～侍ハードラー　為末大～」	中学校　３－（３）生きる喜び	中学校 １－（２），２－（６）